

## Ver0.96新機能の紹介

### ① ファイル監視機能

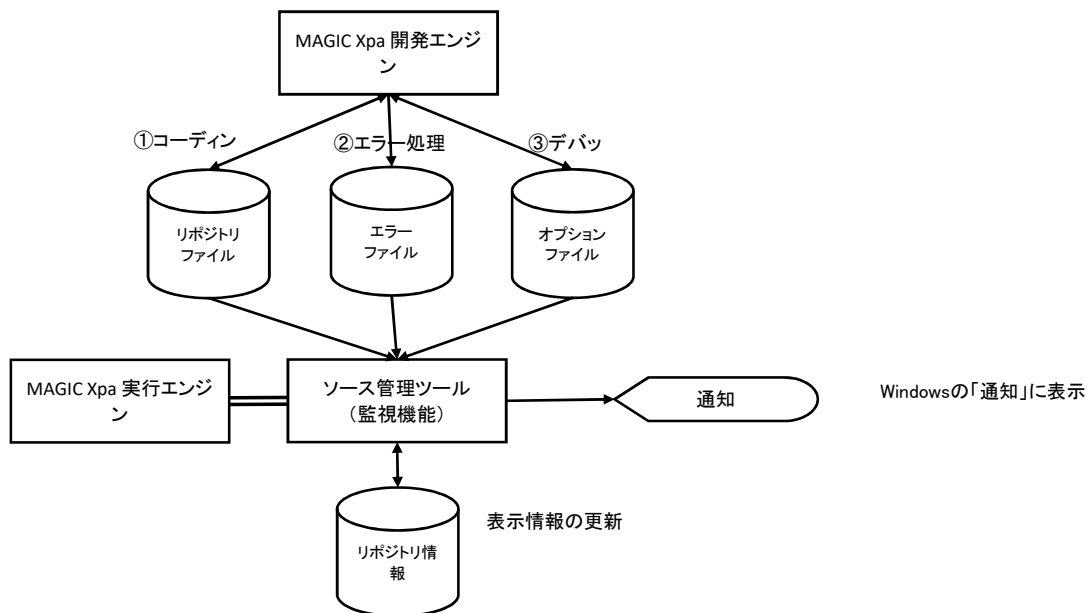
開発作業を支援する機能として、下記のファイル監視機能を実装しています。  
検出時は、Windowsの「通知」に表示します。

- 1) MGERRORLOG の監視
- 2) ソースファイルの更新監視
  - a) リポジトリファイル
  - b) 個別プログラムソースファイル
  - c) オプションファイル(「プロジェクト名.opt」ファイル)

エラー発生時刻とその主要なメッセージ

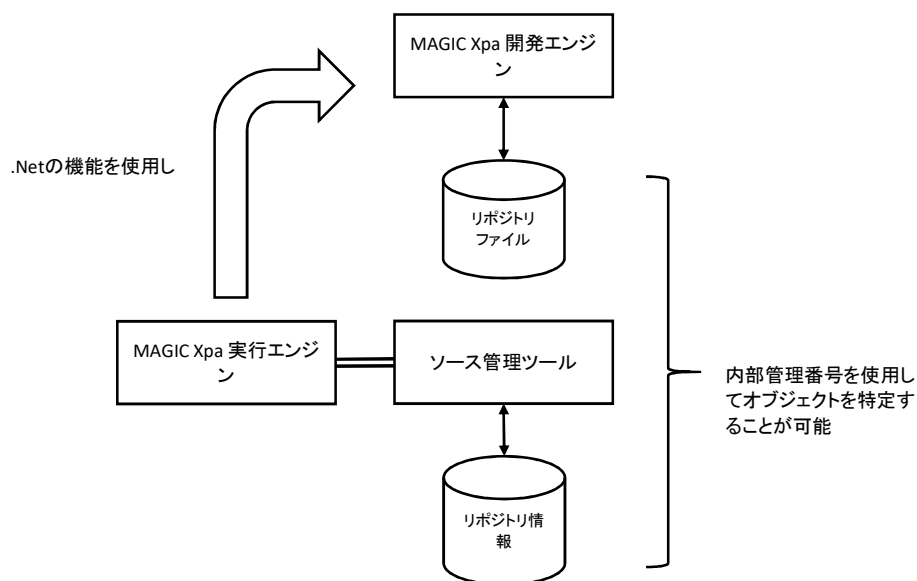
モデル、データ、プログラム、ヘルプ、権利、メニュー、コンポーネント等のリポジトリファイルの更新  
プログラム番号1から始まる個別のプログラムソースファイルの更新  
ブレークポイント、ウォッチリスト等の情報を管理するファイルの更新

リポジトリ情報の変更を検出した場合は、取得した情報によりツールの表示内容を更新します。



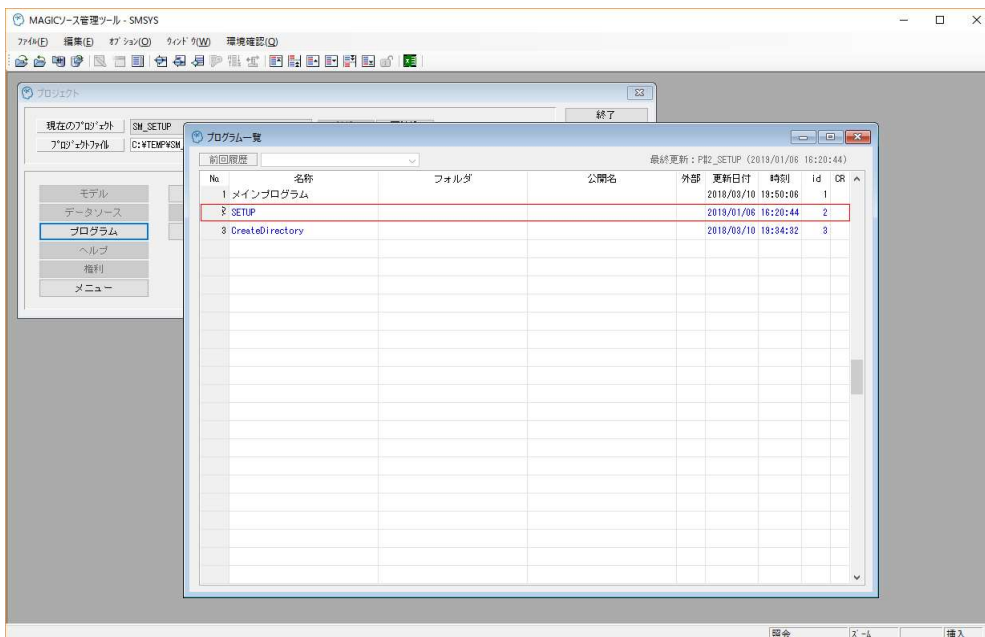
### ② 「開発版へ」機能

表示中のオブジェクトを開発版で開く機能を実装しました。  
(「Upgrade Manager」の「Goto object in the studio」イベントで実装されているソースを参考にさせて頂きました)

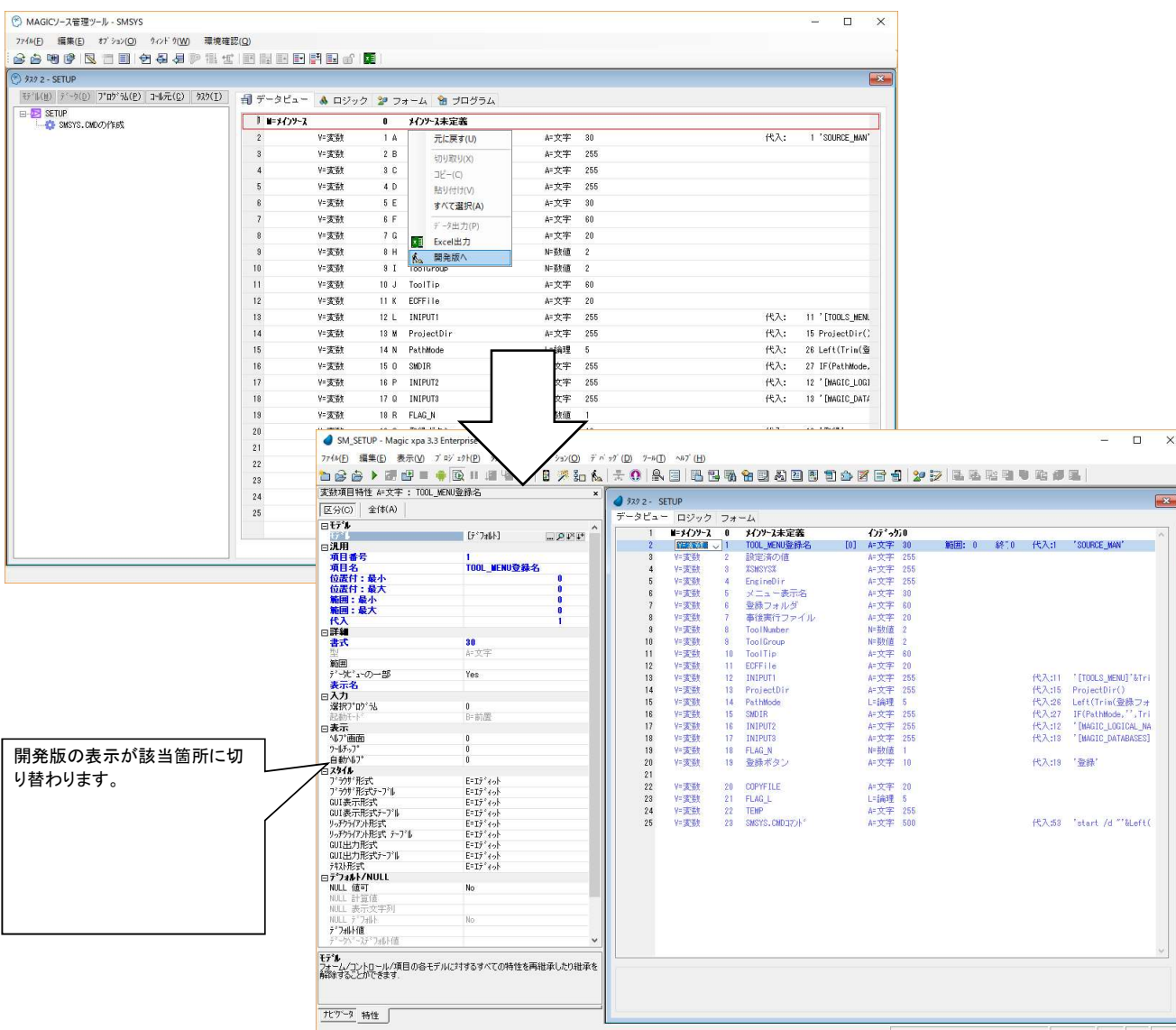


## <実行例①「開発版へ」機能>

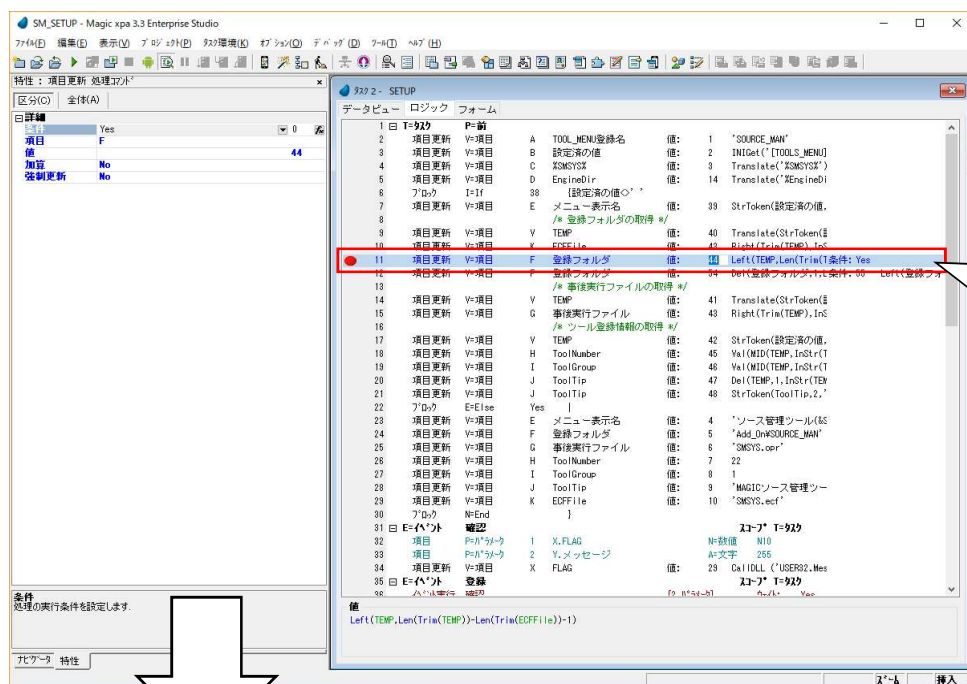
#2の「SEUP」プログラムにカーソルを合わせ「F5:ズーム」します。



データビューが表示されます。タブを切り替えることにより、ロジック、フォーム等に切り替え可能です。コンテキストメニューから「開発版へ」を選択すると、並行して起動している開発版の画面が該当箇所に切り替わります。



## <実行例②「ファイル更新監視」機能>



オプションファイル(プロジェクトフォルダ内の「プロジェクト名」.optファイル)の更新を検出して通知がポップアップします。

「ブレイクポイント情報」メニューを選択することにより、設定箇所を表示することが可能です。

「ブレイクポイント情報」をクリックすると、設定済みブレイクポイントの一覧が表示されます。

任意のブレイクポイントでズーム(F5キー)するとプログラムソースの内容を表示するとともに、該当位置に位置付けします。

「開発版へ」を選択すると、ブレイクポイントを設定した箇所に、開発版の表示が切り替わります。

有効	PK	名前	条件	値
<input checked="" type="checkbox"/>	2	SETUP	11	正常時

日	時刻	P	前	A	値
1	T=時刻	P=前			
2	項目更新	Y=項目	A	TOOL_MENU登録名	値: 1 "SOURCE_MAN"
3	項目更新	Y=項目	B	設定済の値	値: 2 INIDET(' [TOOLS_MENU] 'Trim(TOOL_MENU登録名))
4	項目更新	Y=項目	C	XSMSYS	値: 3 Translate('XSMSYS')
5	項目更新	Y=項目	D	EngineDir	値: 14 Translate('XEngineDir')
6	項目更新	Y=項目	E	メニュー表示名	値: 39 StrToken(設定済の値,2,'')
7	項目更新	Y=項目	F	登録フォルダ	値: 40 Translate(StrToken(設定済の値,4,''))
8	項目更新	Y=項目	G	登録フォルダ	値: 43 Right(Trim(TEMP),InStr(Trim(TEMP),' ')-1)
9	項目更新	Y=項目	H	登録フォルダ	値: 44 Left(Trim(TEMP),Len(Trim(TEMP))-Len(Trim(TEMP))-1)
10	項目更新	Y=項目	I	登録フォルダ	値: 54 Del(登録フォルダ,1,Len(Trim(TEMP)))
11	項目更新	Y=項目	J	登録フォルダ	値: 41 Translate(StrToken(設定済の値,8,''))
12	項目更新	Y=項目	K	登録フォルダ	値: 43 Right(Trim(TEMP),InStr(Trim(TEMP),' ')-1)
13	項目更新	Y=項目	L	登録フォルダ	値: 42 StrToken(設定済の値,8,'')
14	項目更新	Y=項目	M	登録フォルダ	値: 45 Val(MID(TEMP,InStr(TEMP,' ')-1))
15	項目更新	Y=項目	N	登録フォルダ	値: 46 Val(MID(TEMP,InStr(TEMP,' ')-1))
16	項目更新	Y=項目	O	登録フォルダ	値: 47 Del(TEMP,1,InStr(TEMP,' ')-1)
17	項目更新	Y=項目	P	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
18	項目更新	Y=項目	Q	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
19	項目更新	Y=項目	R	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
20	項目更新	Y=項目	S	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
21	項目更新	Y=項目	T	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
22	項目更新	Y=項目	U	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
23	項目更新	Y=項目	V	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
24	項目更新	Y=項目	W	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
25	項目更新	Y=項目	X	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
26	項目更新	Y=項目	Y	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
27	項目更新	Y=項目	Z	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
28	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
29	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
30	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
31	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
32	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
33	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
34	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
35	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
36	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')

区分	全体	日	時刻	P	前	A	値
項目	Yes						
値	No						
追加	No						
強制更新	No						

日	時刻	P	前	A	値
1	T=時刻	P=前			
2	項目更新	Y=項目	A	TOOL_MENU登録名	値: 1 "SOURCE_MAN"
3	項目更新	Y=項目	B	設定済の値	値: 2 INIDET(' [TOOLS_MENU] 'Trim(TOOL_MENU登録名))
4	項目更新	Y=項目	C	XSMSYS	値: 3 Translate('XSMSYS')
5	項目更新	Y=項目	D	EngineDir	値: 14 Translate('XEngineDir')
6	項目更新	Y=項目	E	メニュー表示名	値: 39 StrToken(設定済の値,2,'')
7	項目更新	Y=項目	F	登録フォルダ	値: 40 Translate(StrToken(設定済の値,4,''))
8	項目更新	Y=項目	G	登録フォルダ	値: 43 Right(Trim(TEMP),InStr(Trim(TEMP),' ')-1)
9	項目更新	Y=項目	H	登録フォルダ	値: 44 Left(Trim(TEMP),Len(Trim(TEMP))-Len(Trim(TEMP))-1)
10	項目更新	Y=項目	I	登録フォルダ	値: 54 Del(登録フォルダ,1,Len(Trim(TEMP)))
11	項目更新	Y=項目	J	登録フォルダ	値: 41 Translate(StrToken(設定済の値,8,''))
12	項目更新	Y=項目	K	登録フォルダ	値: 43 Right(Trim(TEMP),InStr(Trim(TEMP),' ')-1)
13	項目更新	Y=項目	L	登録フォルダ	値: 42 StrToken(設定済の値,8,'')
14	項目更新	Y=項目	M	登録フォルダ	値: 45 Val(MID(TEMP,InStr(TEMP,' ')-1))
15	項目更新	Y=項目	N	登録フォルダ	値: 46 Val(MID(TEMP,InStr(TEMP,' ')-1))
16	項目更新	Y=項目	O	登録フォルダ	値: 47 Del(TEMP,1,InStr(TEMP,' ')-1)
17	項目更新	Y=項目	P	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
18	項目更新	Y=項目	Q	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
19	項目更新	Y=項目	R	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
20	項目更新	Y=項目	S	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
21	項目更新	Y=項目	T	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
22	項目更新	Y=項目	U	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
23	項目更新	Y=項目	V	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
24	項目更新	Y=項目	W	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
25	項目更新	Y=項目	X	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
26	項目更新	Y=項目	Y	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
27	項目更新	Y=項目	Z	登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
28	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
29	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
30	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
31	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
32	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
33	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
34	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
35	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')
36	項目更新	Y=項目		登録フォルダ	値: 48 StrToken(TEMP,2,'')

### ＜実行例③「エラー監視」「ソース更新監視」機能＞

適当な箇所にエラーコマンドを入れプログラムを修正

プログラムの変更を検知

プログラム実行時に記録されるエラーログの更新を検知し、それを通知